自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100251		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア(2階ユニット)		
所在地	北海道釧路市堀川町8番30号		
自己評価作成日	令和2年1月17日	評価結果市町村受理日	令和2年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・介護理念である「入居者の気持ちに寄り添う事ができる感性を磨き、個々の尊厳を守ります。」を日々、実践し、認知症になっても在り続ける一人ひとりの尊厳性を大事にし、人権を守って行く為に支援しています。又、一人ひとり生きてきた歴史の思いを大事にし、その人らしい生活ができるよう支援し、入居者様、ご家族様が安心、安全を実感していただけるように努めて参ります。
 ・開設して10年が経過しました。職員は「ウィスタリア」がこの地にあって良かったと地域の方々にとって頂きたいと、入居者様への寄り添いを第一に考え、一人ひとりの思いにどのように応えられるかを模索しながら、日々、自己研鑽に努めているグループホームウィスタリアです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100251-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年7月3日(令和元年度分)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と ☐ 2. 家族の2/3くらいと ☐ 3. 家族の1/3くらいと ☐ 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある ☐ 2. 数日に1回程度ある ☐ 3. たまにある ☐ 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように ☐ 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに ☐ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている ☐ 2. 少しずつ増えている ☐ 3. あまり増えていない ☐ 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が ☐ 2. 職員の2/3くらいが ☐ 3. 職員の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が ☐ 2. 家族等の2/3くらいが ☐ 3. 家族等の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、具体的場面での理念の共有化に努めています。又、ケアの全体性の中で場面を作っていくように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とのつながりは、「挨拶から」という考え方で、ホームの前で朝、会った方は地域の方と思い挨拶をするようにするなど、日常的交流があるように努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの問い合わせについては、いつでも応じる体制を整えています。又、施設見学や入居相談についても積極的に受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、介護職員も含めての運営推進会議を開催し、出席者の方々の意見を積極的に取り入れ、サービスの質の向上に努めています。開催の議事録は市役所担当者へ報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者には適宜連絡を取り業務連絡だけではなく入居者の状況等の報告を併せて行う事でホームの状況等を理解してもらっている。又、隣接している地域包括支援センター職員には運営推進会議に出席して頂く事で日々の取り組みを理解して貰っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月例会議で勉強会を行い、具体的な場面で何が拘束なのか？等、実務に関しても施錠等を含め身体拘束に該当しそうな事柄においては職員間で話し合う事が出来ています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	介護理念でもある尊厳性の保持と密接な事項であるため、特にこの事は管理者が注意を払っています。又、意識しない中で結果的に介護上、好ましくない場面无いよう注意を払っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が後見人の研修を受け、実際に活動をし、実際場面においても制度実施者と連携し具体的場面での対応を協議している。又、その事を職員に周知し、制度理解を深めてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族のみの見学、説明では無く、ご本人にも感覚的に安心して生活できる場所としての説明と自己決定を重視しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月毎の全体会議、2ヶ月毎のユニット会議を開催し、職員の意見を聞く機会とし、運営に反映するように取り組んでいます。自己評価も職員と一緒に取り組んでいます。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族の来訪時、あるいは運営推進会議メンバーの家族代表からも、お気持ち、意見等を聴く努力をしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の廃止、働き方改革の導入等、介護休暇制度を作り労働環境の改善に努めています。資格取得者にはベースアップがある給料形態になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内等はポスターを掲示し職員へ周知し、参加希望がある場合はシフトの調整等も行う。新任職員にはOJT等の機会を確保している。又、メンタルケアを重視しなければならないユニットである為、職員間の連携に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の協議会に加盟して交流をしている。又、地域密着型事業所の集いに参加し交流を深めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、入居後にも必要に応じて個別に対応する事で新しい環境に馴染めるように支援し、ここで安心して暮らせる所だという事が感覚で判るよう努めています。不安や要望を聴く事ができるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に将来的な事についての不安をお持ちの家族が多い為、この事についてホームの考え方を伝え、安心して頂くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、特に1週間はホームでの生活に馴染むまでの間は個別に関わる時間を設け、必要な支援を見極める事ができるように努めている。入居前に利用していたサービスなどを視野に入れ検討する事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、入居者の立場になり、入居者のできる事、しやすい環境を整えて行ってもらっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は通信とともに入居者の日常の暮らしぶりを報告している。行事等にはご家族にも参加して頂き、本人に関わって頂ける機会を設けています。又、通院介助などご家族ができる支援を行い信頼関係を構築して行くよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人の訪問にも、ご家族や本人の意向に沿って対応しています。その方の生活歴への肯定的態度を上手に表現するよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者同士、楽しい時間を過ごせるよう座席の配置等を配慮しています。そうする事で入居者同士、出来ない事を手伝ったりする場面が見られています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去されてもお見舞いに行ったり、家族の相談にのっています。これらの為、退去されてから何年も経過してもお付き合いのあるご家族もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、言葉の真意の理解に努めています。その上にたったコミュニケーションに努め、思いの充足を図っています。又、ご本人の意向を考慮し、出来る限り対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を本人やご家族からヒアリングしています。入居後も本人から昔の話を聞くようにし、今までの生活に沿った生活ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル管理、温度表管理という日動変化の波を把握しながらその現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な場面でもモニタリング、アセスメントの視点を含んだケアに取り組み、ユニット会議中のカンファレンスで総括的に把握して、介護計画の手順を踏んでいます。その上でご家族の説明責任を果たしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で記録を介しての情報共有がされ、サブ的な役割で別ノート(連絡ノート)を設け、周知徹底を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、一人一人を生活者と位置づけ、その全体性に関わる努力をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設との連携により、地域の方達との交流を心がけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は入居者やご家族の要望を尊重しています。受診時にはご家族の協力も得ながら看護師や職員が同行しています。協力病院や主治医の往診体制も整え入居者の健康状態を関係者と情報共有をしています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師に週1回、来てもらい健康チェック、健康相談を実施、入居者の体調面等の情報を申し送り相談に乗ってもらっているます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は職員が面会に行き、現状を把握しながら、ご家族と共にムンテラを受け、医療情報を共有する事に努めています。又、施設機能の変更も有りえる為、医療機関との関係構築には努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤時におけるホームとしての指針を作成し同意書を整備しています。医療行為が生じた場合は主治医がご家族に説明し、今後の方針を関係者と協議しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会参加、急変時の夜間対応など(救急車の手配、ご家族への連絡の手配)をマニュアル化しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練や消防職員指導の下で消化器の使い方、通報訓練等を行っています。又、断水、停電、地震時の避難先も確保し必要な備蓄品も用意しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせた言葉掛けに努め、言葉の抑制を意識し確認しながら日々ケアに当たっています。排泄や入浴時にプライバシーに配慮。居室のドアは必ず閉めるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい自己決定はなかなか困難だが、ご本人の感覚を大切にしたいと考えています。ご本人の表情などからご本人の意向を汲み取るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も入居者のペースに合わせて声掛け等を行い入居者の方達の時間的波長に合わせる努力をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の生活歴に沿っての身だしなみに配慮しています。特に整髪には気を付けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も大事な日常生活なので、出来る限り皆で準備をし、食事が楽しくなるように努めています。職員と一緒に食べ、時間を共有する事で入居者の嗜好等をより理解できるように努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録しながら栄養管理、水分管理、健康管理に努めています。又、摂取が機械的にならないように気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来る、不十分、出来ないなど能力面を見ながら自立を促します。口腔内トラブルについては医療連携をとっている歯科医師に往診を依頼しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握して促しや誘導を行い、不快状態の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録の中で、毎朝下剤等の調整をしています。ここに乳酸菌を飲む等、飲食物の工夫も行っていきます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本とし、入居者の心身の状態に考慮しながら支援しています。無理強いはせず言葉掛けなどで入浴に繋げ、清潔保持に努めています。入浴時間はコミュニケーションの場となっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング、居室のどちらでも休息できるスペースを確保し自由に休息できる環境を整え、入居者のその時の状況に合わせて休息をす等、1日の流れを考え支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬しやすいよう介助を行い、薬の用法や用量になどについて理解に努めています。特に薬が変更になったような場合、その変化について十分観察する事に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中からメリハリのある生活は、その人にとっては何なのか？理解し実践するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩に出掛けたり、受診時に入居者と馴染みの店で買い物をしたり、入居者の希望や興味を大切にされた外出支援に取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使うかわないかは別として、金銭を持つという安心感を考え、小銭の入った財布を持っている入居者もいます。又、外出時はご本人の意向に沿って使えるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に沿って本人が電話をしたり、手紙のやり取り等、通信の保障、人権という考え方で支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心掛け、生活しやすいように配慮しながら、心地よい環境は、心地よい精神状態になると考え日常的に努力しています。季節ごと、行事ごとに合わせての掲示物の工夫も行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、共有ルームとなっている為、落ち着く場所を重視しています。さりげなく新聞や雑誌が置いてある等の気配りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者やご家族に普段から使用している物を持参して下さいと伝えている。入居者は馴染みの物や思い出の写真に囲まれて自分の部屋として、その人らしく居心地の良い部屋作りを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られたスペースでも工夫する事で車椅子でも自由に移動できるように努め、又、安全面を考えながら、認知症の方、一人ひとりに使い勝手が良いように環境を整える努力をしています。		